
借金は彼を殺した。

愛華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

借金は彼を殺した。

【Nコード】

N1086V

【作者名】

愛華

【あらすじ】

借金により死んでしまった恋人を、想い、悼み、嘆く話。

（前書き）

題名から想像するものとは少し違うと思います（笑）

あなたから送られてきた一通の手紙…。

その内容の意味が私にはわからない。

☞
ごめん

サヨナラ

□

このたった2行の手紙が、今も私を苦しめる。

あなたと最後に会ったのは、先々週の日曜日。

その日は私達の久々のデートだった。

何かと忙しい身であつた営業マンのあなたは、私個人としては誇りだった。

確かに人が言うように冴えない人であつたと思うし、無口な人だったなと思つてはいる。

けれど、人のことをよく見ていて、気付けばどんなことでも手伝ってくれる。

私はそんなあなたが好きだった。

そもそも、派遣社員の私と正社員のあなたが釣り合うなんて夢だったんだやっぱり、、

今の私は、そんな風にあなたと過ごした日々を考えている。

「待たせたな、京子」

そうやって私に声をかける和彦。あなた

今日は久々のデートである。

だから、私は少し張り切って大きめな声で「今日はどこに行く？」と言った。

すると「カラオケとかはどう？」「最近行ってないじゃん？」と言う和彦。

私はその言葉に賛同し、カラオケ屋に向かうことにした。

しばらくの間、2人並んでカラオケ屋に向かっていると、ほんの少しだけ手が寂しく思えた。

だから私は、そつと左手を伸ばし、和彦の手を“ギュツ”つと握る。

すると、『どうした？』つとも言いたそうな顔で私を見つめる和彦。

私はそれを見て“ニコッ”と笑いかけた。

カラオケボックスに入って、私が3曲・和彦が2曲を歌った時、和彦は不意にトイレに立ったよね…。

でも、それから2度と部屋に戻って来ることはなかった…。

そして、私の下にも、、

私をもっと早く気付いていれば、気付いていたならば、あなたが死ぬことはなかったのだろうか？

借金なんてものが、いつからあったかはわからない。

けれど、私が気付いていたなら、少しぐらいは今という現実がかわっていたのかな？

友達や家族は私を慰めようとする。

借金からの自殺…。

それだけで人は良く思わない。

あなたが言ってくれれば…。

あなたが言ってくれさえすれば…。

そんなに私が頼りなかった？

私は今でも死んだあなたを思っているのに…。

（後書き）

感想・評価等をいただけるなら、嬉しいです^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1086v/>

借金は彼を殺した。

2011年10月9日09時06分発行